

平成 28 年度 第 3 回人権読本ぬくもり第 3 版検討委員会 議事録

- 1 日時 平成 29 年 3 月 29 日(水) 13:30~15:10
- 2 場 所 教育委員会会議室
- 3 出席委員 (8 名)
- 4 傍聴人 なし
- 5 議事

【事務局】

今年度、検証授業を実施した題材について、修正案、方向性を説明

【委員長】

検証授業後の修正案について、一つ一つ審議していきたい。

“正しいことを知りたい”については、前回の検討委員会での修正点が反映されており、これでいいのではないか。

【委員】

“院内学級からのメッセージ”については、検証授業後に内容を検討しており、結果的に文章量は多くなっているが、いいのではないか。

【委員】

院内学級は、退院するのが難しいなど一方通行で暗いイメージがあるが、前向きに生きることや命を大切にすることなどのメッセージをきちんと伝えられればいいのではないか。

【委員長】

“そんなこと言わんで”は、結論を書くのではなく、子どもたちに考えさせる題材になっており、よく構成されている。

ガイジ発言は、禁句指導をして「言わないようにしましょう。」という逆に関心が増えたりする。子どもたちが日常生活を送るなかで、自分たちの差別性に気づいて、どうすればいいのかを考える題材であり、あえて結論を明示していない。子どもたちが、悩み感じながら学んでいくことが大事。

【委員】

“正しいことを知りたい”は、逆に「本当のことを知ろうとしない。それが差別の始まりよ。」と結論を明示している題材である。この題材は、不確かな情報に流されて、それを鵜呑みにすると、差別をする側になってしまう危険性を知り、差別をしないためには正しく知ろうとすることが大事だということをきちんと示す必要がある。展開後段

では「不確かな情報に出会った時にどうするか？」などを尋ねてもいいのではないか。教える側が、生徒にきちんと伝えるために正解をきちんともっておく必要がある。展開例に抑えるべきところを書き加えたほうがいいのではないか。

【委員】

“ハンナのかばん”の検証授業は社会科教師がしていたが、社会科教員なので、歴史の流れを抑えながら授業をしていた。この題材は、道徳で教えることになっているが、道徳で教える場合、どのような展開になるか？地図などがあつた方が理解しやすい。

展開例をみると、展開後段で杉原千畝の発問があるが、修正案では、杉原千畝の部分を削除することになっている。大きな発問であり、展開例が大きく変わってしまうのではないか。

【委員長】

この題材では、「あなたが、ハンナの友人だったらどうしますか？」という発問があるが、この時代に「法律を破ってユダヤ人を助ける。」という行為は、当時の時代背景を考えると、簡単にできることではない。その状況を考えると、生徒にどうするかを選ばせるのは酷なことではないか。

【委員】

中学校で、同様の時代を取り上げて授業を行い「あなたは、どのような立場をとるか？」という問いを投げかけたが、子どもたちからは色々な意見がでて、考えをめぐらせることができていた。

歴史上の出来事を知り、それを現代の身近な例に置き換えて、どうすればいいかを考えさせることは、道徳的な観点からも十分に成り立つ題材ではないか。

【事務局】

色々なご意見をいただいたが、相談しながら進めていきたい。

【委員長】

“近現代の部落史”については、方向性の提示があつたが、いかがか。

【委員】

この題材は、社会科の教育課程に位置付けることになっているので、実際にこの教材を使用する社会科教員が活用しやすい方向で作成する方向性ということはいいいのではないか。

社会科では、單元ごとに教えているので、歴史の流れが分かりづらい面がある。年表を作成し、歴史の流れをおさえるというのは理解しやすくていいのではないか。

【委員長】

部落史学習のねらいは、どこからとつたのか？

ねらいの「①どのような社会の仕組みや民衆の意識が、部落差別を温存してきたのかに

気づく、②どのような社会の仕組みや民衆の意識が、部落差別を温存してきたのかに気づく」はわかるが、「③自分自身を見つめ、未来に向かって自分はどう生きるべきかを問う」所まで求めるのは難しいのではないか。

【委員】

題材を新たに作成するという事だが、次の題材は、検証授業をするのか？

【事務局】

50分を使って社会科の授業を実施するものではないので、検証授業の実施は難しいと考えている。

ただ、授業の進め方については、社会科研究会等に協力いただくなど、何らかの形で授業の流れを確認できればと考えている。

【委員】

「ぬくもり」は、作成するだけでなく活用されることが大事なので、事務局提案のように、社会科の先生に意見を聞くなど、使う立場の人と一緒に作成することはいいことではないか。

また、「ぬくもり」の良さは、地元の史実を取り上げて、より身近に人権課題を考えることができる点にある。史実のなかからいくつか取り上げるという事だが、要素としては、なるべく史実を網羅してほしい。教える側も掲載しているものすべてを教える必要はないが、教師が選択して活用しやすくした方がよい。

【事務局】

貴重なご意見をいただいたが、社会科の授業で活用する題材なので、作成に当たっては、社会科教員の意見も参考にさせてもらい、社会科研究会等にも協力いただきながら作成していきたい。

【委員長】

では、「近現代の部落史」の題材は、事務局提案の方向性で進めていただくこととする。ぬくもりの新しい試みとなっていのではないか。

6 今後の予定について

今年度の事業進捗を踏まえて、来年度の作業スケジュールを作成している。

1学期中に残りの10題材について検証授業を実施予定であり、検討委員会は、5月下旬、8月下旬の2回を予定。8月の検討委員会で答申をいただき、最終調整後、印刷作業に入り、1月に学校に納品する予定で進めたい。